生殖医学センター（不妊治療・体外受精センター）

1．スタッフ（平成27年４月１日現在）

センター長（教　授）　松原　茂樹
外 来 医 長（准教授）　鈴木　達也
病 院 助 教　　池田　伴衣
　　橘　　直之
シニアレジデント　　２名

2．生殖医学センターの特徴

生殖医学センターは2007年４月に開設され、不妊症（一般不妊治療・生殖補助医療）・不育症診療を行っている。

不妊症診療：不妊症の原因は男性側が約50%、女性側が約65%とされている（重複あり）。従って夫婦各々を診察し、泌尿器科とも連携しながら不妊症の原因を明確にしたうえで治療を行っている。また不妊治療後の妊娠に際し、産科との連携体制を整えている。

生殖補助医療：卵子や精子などの配偶子を体外で操作する治療法を生殖補助医療（ART）と称する。当院では一定水準の妊娠率を確保しながら、卵巣過剰刺激症候群や多胎妊娠等の合併症を最小限にすることを目標に、体外受精（IVF-ET）、顕微授精（ICSI）、胚凍結保存や胚移植を行っている。

不育症診療：妊娠はするが継続できない、習慣流産・反復流産の診断・治療を行っている。

・施設認定

生殖医療専門医制度認定研修施設

・専門医等

日本生殖医学会認定
生殖医療専門医　　鈴木　達也
　　藤原　寛行

日本卵子学会認定
生殖補助医療胚培養士　　角田　啓道
　　山口千恵子

日本生殖医療心理カウンセリング学会認定
生殖医療相談士　　西脇　京子
　　田村恵理子
　　四反田由紀

3．実績・クリニカルインディケーター

1）新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数　　不妊341人
　　不育38人
再来患者数　　約1,2000人

2）入院患者数（病名別）

病　　名	患者数
体外受精・採卵術（日帰り）	339
婦人科良性腫瘍合併不妊症	89
不妊治療後流産・異所性妊娠・OHSS	32
合　　計	460

3－1）手術症例病名別件数

病　　名	人　数
子宮筋腫合併不妊症	8
付属器腫瘍合併不妊症	17
子宮内膜ポリープ合併不妊症または粘膜下筋腫合併不妊症	57
異所性妊娠	2
流産	24
その他	7
合　　計	115

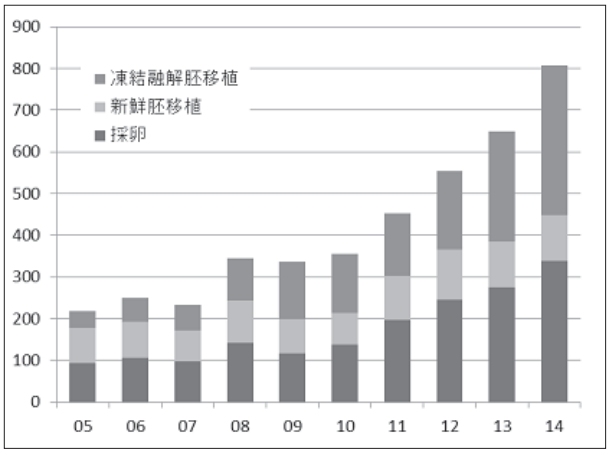
3－2）手術術式別件数・術後合併症件数

	症例数	合併症件　数	再手術症例数
子宮筋腫核出術	8	0	0
TCR	57	0	0
腹腔鏡下付属器手術	16	0	0
開腹付属器手術	3	0	0
子宮内容清掃術	24	0	0
その他	7	0	0
合　　計	115	0	0

４）ART処置件数

採卵339件、新鮮胚移植110件、凍結融解胚移植358件

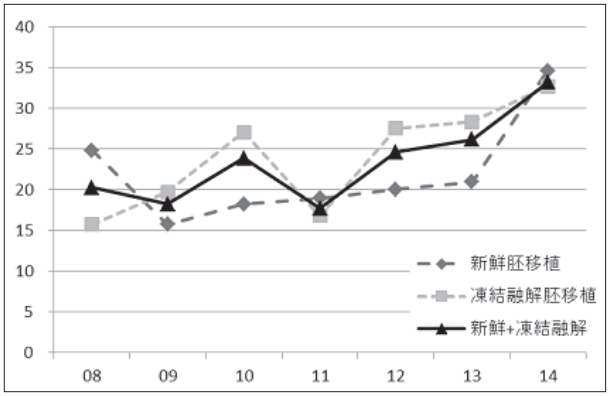
採卵および凍結融解胚移植がここ数年急増している。2014年の処置総数は800件を超え過去最多となった（下図）。



５）ART妊娠率

新鮮胚移植34.5%、凍結融解胚移植32.7%

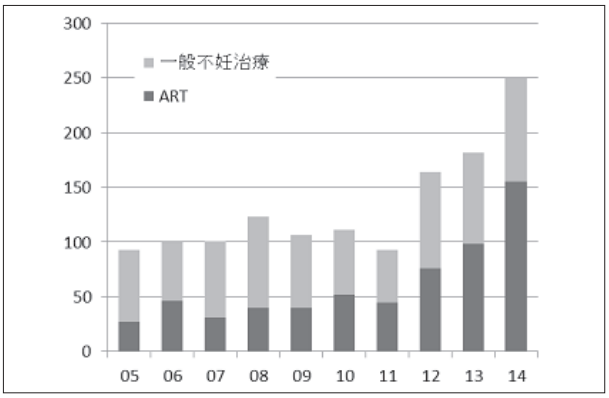
2014年の新鮮胚移植および凍結融解胚移植の妊娠率は過去最高であった（下図）。



６）妊娠数

一般不妊治療95名、ART155名

2014年の一般不妊治療およびARTの妊娠数は過去最多であった（下図）。



７）検査

子宮卵管造影　173件、子宮鏡　112件、精液検査　1,948件など

４．事業計画

2015年１月から初診患者紹介制を導入。

2015年秋に、外来に隣接して採卵室・培養室が本移転をする予定である。移転により培養環境の悪化、妊娠率の低下がないよう留意する。

５．来年の目標

医療安全・妊娠率の向上を目標とする。